



令和 5 年 福島市内ロータリークラブ新年合同例会

ホストクラブ会長挨拶 福島西ロータリークラブ 高梨 哲男 会長

皆様明けましておめでとうございます。本日は仕事始めの忙しい日にも関わらず、福島県の鈴木副知事、木幡福島市長ならびに歴代パストガバナー、市内 8 クラブの重鎮の方々にご出席いただき、主催クラブを代表して深く感謝いたします。僭越ながらご挨拶申し上げます。

未曾有の震災から 13 年目を迎えるにあたり、私たちロータリアンの認識や価値観が多様化し、それぞれの現状に対する感覚が歪曲矮小化され、原発事故が何故か風化し、電力不足を隠れみのに補償問題をはじめ、汚染水の海洋投棄を押し上げ、私たちの苦悩を置き去りにして、まるで日家の危機を隠蔽する事により責任の不明確さを露呈してきています。

数々の複雑な問題や議題への対応をせまられる今年も始まりますが、私たちロータリアンとしての立ち位置は不変でありはっきり、すっきりしています。政治家の不祥事や物価高、迫りくる不景気、世知辛い心の闇がやがてはロータリーイズムに重くのしかかってくる気がします。全く関係のない茅の外で客観的に現状を分析する訳にはいかないのではないでしょうか。威信をかけた迎々しいイマジンロータリーを声高々に呼び半年が過ぎました。目の前にある財団への寄附や何がなんでも会員増強が常に迫りかけてきます。状況は直感的に変える事はできないし、二面性を含んでいます。意思や理念はやがて岐路に立つロータリークラブの課題として残しておきましょう。深く考えずにこの国の戦争、コロナ、円高などあらゆるストックな心を今日は封印し、交流を深めていただければ幸いです。

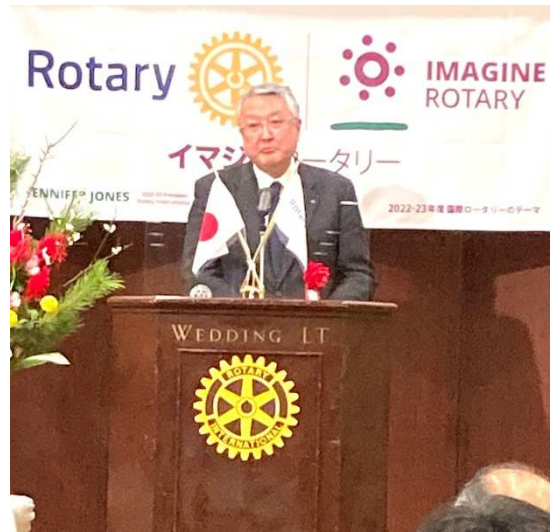


来賓挨拶 福島県 内堀 雅雄 知事（代理 鈴木 正晃 副知事）

皆さん明けましておめでとうございます。本日は内堀雅雄知事に代わりまして、ご挨拶させていただきます。ロータリークラブの皆様におかれましては、日頃から地域に根差した社会福祉活動や、時代を担う青少年の健全育成活動を通して、明るく活力ある地域社会作りにご尽力いただきありがとうございます。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた様々な取り組みにも、ご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

去年は相撲の3月場所において、若隆景関が幕内最高優勝、そして年間最多賞という快挙を成し遂げられ、若元春関も小結への昇進が決定するなど、その活躍は多くの県民に勇気と感動を届けてくれました。また、東京オリンピックで野球、ソフトボールの会場となった県営あづま球場では、日米対抗ソフトボール大会が開催され、復興に向けて調整を続ける福島の今を発信する絶好の機会となりました。福島県としましては、こうした復興に向けた明るい光をさらに輝かせていくため、今年度からスタートした新しい総合計画において、触れ合いと親しみのある魅力あふれる県作りを重要政策の1つとして掲げ、企業の皆様や様々な方々と協働し、互いの強みを生かしながら、地域課題の解決に取り組むこととしております。

このような中、ごみ拾いをスポーツとして楽しむスポゴミ大会をはじめ、皆様が崇高なロータリー精神のもとで実践されている様々な活動は、住民の方々が楽しみながらともに課題を解決をする、活力ある地域社会を実現しようとするものであり、地域における人と人とのつながりを深め、福島県の復興と地方創生を牽引する原動力となる大変意義深い取り組みであります。皆様におかれましては、引き続き地域住民が主役となる地域づくりにご尽力を頂きますとともに、地域社会のさらなる発展のため、一層のお力添えをお願い申し上げます。結びに、ロータリークラブの益々の発展と皆様の今年1年のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



来賓挨拶 福島市 木幡 浩 市長

明けましておめでとうございます。本日は恒例の合同新年会にお招きいただき、誠にありがとうございます。また、ロータリアンの皆様方には、崇高な精神で社会貢献をしていただいていることに熱く御礼申し上げます。

今、私たちはまさに未知の領域、経験したことのない世界にあります。コロナ禍に人口減、物価高、そしてあの国際紛争と、これらが一度にやってくるような経験はこれまでに無かった訳でございます。加えて、デジタル化、ノンカーボン化というような、社会的な変革が押し寄せております。そういう中で、本年はまさに出口戦略を立てて、実践していくべき年だと考えております。コロナ禍は4年目を迎えています。今年、国がこの新型コロナの分類を2類から5類に変えていくようです。それに伴い、色々な政策も変わり、出口に向けた動きができると思います。その点では、我々がいかに遅れないように対応するかが課題であり、皆さんもそれぞれの出口戦略を描いて、実践、準備をして欲しいと思います。

去年はこうした難しい世界の中で、相撲の大波3兄弟の活躍は私たちに希望を与えてくれました。市内でも、実は明るい芽が出てきております。

1つはまちづくりであり、東口の再開発、道の駅の開業、市民センター、街中広場など、厳しい時代の中で



もじっくりと成果が見えてきております。何よりも嬉しいのは、若い人がどんどん参加している、あるいは女性にしても、多くの方が起業に取り組んでいる事です。日本政策金融公庫による創業者の男女比率では、福島は日本一であります。また、市ではリノベーションへの補助を行っていますが、取り組む企業の皆さんも非常に多くて、実は予算オーバーの状態です。私はこういった動きを非常に頼もしく思いますし、さらに前へ進めるように後押しをしていきたいと思っております。

また、古関裕而さんの関係では、昨年、作曲コンクールを実施しました。ロータリアンの皆さんには、チェンバーオーケストラなどへのご支援をいただいておりますが、いよいよ今年は13日に野球殿堂の発表が待っており、今年こそは、殿堂入りを実現したいと思っております。また、妻、金子さんの出身地である豊橋市との交流も次のステップに移る具体的なスケジュールを詰めており、近日中には皆さんにお知らせできると思っております。

2つ目は、移住や子育てへの支援だと思っております。昨年の福島市への移住は3.6倍に増えてきましたが、今年さらにこれを上回っております。子育ての環境も日経新聞によりますと、福島市は全国180都市の中で16番目、東北では2番目に子育てし易い街だとのランキングが出されております。これを鵜呑みにはできないとは思いますが、それなりに前に進んでいるという確信を持って、これからも取り組みを進めたいと思っております。ロータリアンの皆さんが力を入れている留学生などへの支援に関しても、福島市は、外国の人にとって、住みよい街だという評判がたつように、今年から交流拠点などを設けて多動な行政を進めていきたいと思っております。

また、デジタル化については、事業活動をするにも何をするにも避けては通れません。福島市は、デジタル都市宣言を発表しました。高齢者にも優しいデジタル化を推進し、地域の隅々までデジタル化を浸透させたいと思っております。

色々抱負もありますけれども、とにかく大事なことは前向きに、そして変革を恐れずに、それぞれがやるべきことを実践していくことだと思います。今年も私自身が頑張っけて参りたいと思っておりますので、是非ロータリアンの皆さんもそういった意識で、取り組んでいただければと思います。本年は皆様にとりまして、幸多き年になりますよう、心よりお祈り申し上げ、私のご挨拶に変えさせていただきます。

《 新年合同例会 次第 》

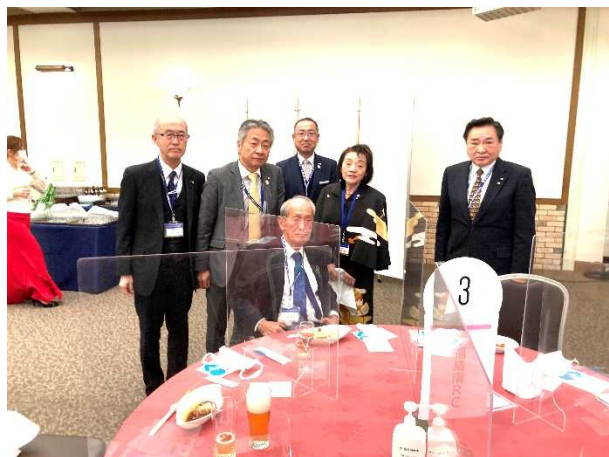
- ・ 開会点鐘
- ・ 国歌斉唱
- ・ ロータリーソング「奉仕の理想」
- ・ ホストクラブ会長挨拶
 - 福島西ロータリークラブ 高梨 哲男 会長
- ・ 来賓並びに参加クラブ紹介
- ・ 来賓挨拶
 - 福島県知事 内堀 雅雄 様
 - 代理 副知事 鈴木 正晃 様
 - 福島市長 木幡 浩 様
- ・ 閉会点鐘

《 祝宴 次第 》

- ・ 開会
- ・ 祝奏
 - 和太鼓奏者 遠藤 元気 さん
- ・ 挨拶
 - 阿久津 肇 パストガバナー
- ・ 鏡開き
 - 大橋 廣治 パストガバナー
- ・ 乾杯
 - 平井 義郎 パストガバナー
- ・ 締め（万歳三唱）
 - 芳賀 裕 パストガバナー

祝宴

新年合同例会に引き続き、祝宴が開かれました。祝宴では、和太鼓奏者の遠藤元気さんによる祝奏の後、大橋廣治パストガバナーのご発声で鏡開きが行われ、ロータリアン同士の友情を深める祝宴となりました。



クラブ新年会

福島南ロータリークラブの新年会は、新年合同例会の祝宴後、場所を茶寮おりおりに変えて開催しました。大橋廣治パストガバナーの乾杯で始まり、盛会に開催されました。今回は、米山奨学生の于秋麗さんが初めての振袖姿で参加いただいた他、新入会員の植松みち子さん（1月4日入会）も参加してくれ、大いに盛り上がりました。



以上